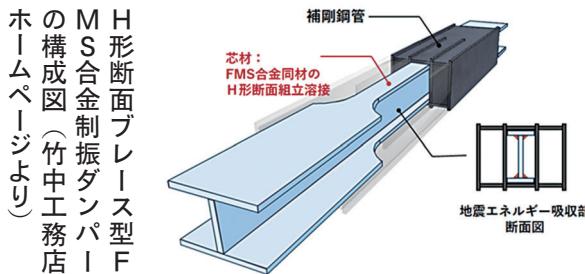


共同開発のFMS合金建築用制振ダンパー

採用物件増加

淡路マテリア
溶接継手大手で素材
・技術開発の淡路マテ
リア（本社・兵庫県洲
本市、社長・三尾堯彦
氏）が共同開発したF
MS（Fe—Mn—Si）鉄
・マンガン・シリコン
ホームページより）



H形断面ブリース型F
MS合金制振ダンパー
の構成図（竹中工務店
ホームページより）

合金鋼を用いた建築用制振ダンパーの採用事例が増えている。直近約10年の公表分だけで6件、このうち木造層ビルを含む3件は昨年から今月にかけて明らかになった。芯材断面をH形にした新たな

製品も生まれ、東京都中央区の14階建て制震構造ビル（来年6月完成予定）で初めて適用。南海トラフなど巨大地震への備えが叫ばれる中、建築物の発注者や設計事務所、ゼネコン、学術関係者らの注目を集めている。



新たに加えた「H形」は「十字」と「ブリース型」だけではなく、有しながら、構造を簡略化して一般的な鉄骨製作工場での生産を可能にしたのが大きな特長だ。FMS合金同で開発。普通鋼の10倍の疲労耐久性を誇る形状記憶合金で、複数回の大地震や長周期・長時間地震動に耐えられる利点を持つ。

芯材の形状はこれまで板状の合金鋼をモルタルと鋼管で覆う「平鋼」と、直交させて地

震エネルギーの吸収性能を約2倍に高めた「十子」の各断面ブレース型2種を主に展開。続性も含めて安全で信頼性が高いと評価されている」と分析。「ブリース型だけでなく、同等の吸収性能を有しながら、構造

形」は「十字」と「ブリース型」だけでなく、「十子」の吸収性能も増えるのを期待している」とコメントしている。

構造ビル（来年6月完成予定）で初めて適用。南海トラフなど巨大地震への備えが叫ばれる中、建築物の発注者や設計事務所、ゼネコン、学術関係者らの注目を集めている。

芯材の形状はこれまで板状の合金鋼をモルタルと鋼管で覆う「平鋼」と、直交させて地

震エネルギーの吸収性能を約2倍に高めた「十子」の各断面ブレース型2種を主に展開。続性も含めて安全で信頼性が高いと評価されている」と分析。「ブリース型」は「十子」と「十子」の吸収性能を有しながら、構造

形」は「十子」と「十子」の吸収性能を有しながら、構造

